



発行所
埼玉県立不動岡
高等学校学友会
加須市不動岡
1丁目7番45号
電話 0480(61)0140

「人生は

選択の連続である」

学友会会長 角田 守良（87回生）



学友会では70才になる「古希」の学年の卒業生をその年の総会と懇親会に招待しています。不動岡高校100周年記念館にある学食で「黄金の時代」の始まり70代のスタートを応援しています。

桑田佳祐1956年生まれの69才、キャンディーズのランちゃん1955年生まれの70才、竹内まりや1955年生まれの70才、中島みゆき1952年生まれの73才、イルカ1950年生まれの74才、小田和正1947年生まれの77才、吉田拓郎1946年生まれの79才…僕が同時代に憧れたシンガーソングライターの活躍がなんだかとても嬉しくなります。残念ながら1948年生まれの谷村新司は72才で亡くなってしまいましたが。

「古希」の同窓生の皆さんに限らず、卒業後、不動岡高校生の頃に思い描いた未来とは異なった波乱万丈、紆余曲折の人生を辿っての今がある人も多いと思います。

「人生は選択の連続である」という言葉があります。AかBか、右か左か、to be or not to be…劇作家シェイクスピアが「ハムレット」の王は「Life is

series of choices」と言っています。あの「鬼滅の刃」では煉獄さんも同じセリフを言っています。

それぞれの解釈は別にして、言葉の意味は真実だと思います。人は日々小さな選択の連続を重ねて生きています。何時に起きようか、何を食べようか、何をしようか…など、人は毎日幾千もの選択をしているというデータもあります。時には、進学先や就職先、生涯の伴侶など、その後の人生を左右するような大きな選択もあります。

これまでの選択の連続が「今」の自分を形作ってきたのは間違いないかもしれませんし、これからの選択の先にあるのが「未来」です。よく「過去と他人は変えられないが未来と自分は変えられる」と言いますが、それも全て選択、勉強も仕事も趣味も生きがいも、全てが選択なんだろうなと思います。

当然ですがその選択と決断は誰でも自分自身で行い自分自身でその責任を負います。あらゆることを考えたうえで、どんなチョイスが良いか、それがどんな意味を持つか、そのチョイスの先の未来はどうなるのか…。

さあ、「古希」の人も、団塊の世代も、しらせ世代も、新人類世代も、バブル世代も、就職氷河期世代も、団塊ジュニア世代も、ゆとり世代も、ミレニアル世代も、Z世代も、現役の大学生や高校生も、「不動岡高校の絆」で様々な選択と決断を重ねながら、未来に向かって元気よく進んでまいりましょう！

「二年目の御挨拶」

校長 関根 憲夫（96回生）



埼玉県立不動岡高等学校学友会の皆様には、日頃、本校の教育活動に温かい御支援をいただいております。

昨年、「未来探究」を中心とする本校の探究活動の取組が高く評価され、一般財団法人三菱みらい育成財団の助成に採択された全国の名立たる高校67校の中から選ばれて東地区グランプリ（東西各1校）を受賞しました。このような評価をいただいたことは大変名誉なことであり、本校の特色の一つである探究活動の取組は一朝一夕にできたものではなく、不動岡高校の教育を支えてこられた諸先輩方の努力が実を結んだものと考えております。

また、昨年度は、外国語科生徒募集停止後、全学年が普通科となり、新学習指導要領による新教育課程が完成する年度という節目に当たることから、今までの不動岡高校の教育を整理するとともに、急速な少子化や高校授業料無償化の流れの中で不動岡高校が選ばれる高校であり続けるため、本校のあるべき教育は何かを教職員と検討しました。令和3年

の学校教育法施行規則一部改正により、各高等学校に三つの方針の策定及び公表が義務付けられ、設置者である埼玉県教育委員会が各学校のスクール・ミッションを策定したことを機会に教職員で知恵を絞って本校のスクール・ポリシーを作りグランドデザインとしてまとめました。

埼玉県教育委員会から与えられた本校のスクール・ミッションは「科学教育と国際理解教育を軸に地域に貢献する学校」として、探究活動及び文理融合型のリベラルアーツを実践し、知識・技能や思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう力を総合的に養い、明日の世界を創造する品格あるリーダーとなる人材を育成する学校」です。これを受けて4つのグラデュエーション・ポリシー（卒業までに育成を目指す資質・能力）を策定しました。具体的には以下のとおりです。1. 自立した行動力と最後までやり抜く力（常に課題意識を持ち、自ら設定した目標達成に向けて、主体的に考え、判断・行動し、最後までやり抜く力を育む）。2. 挑戦する姿勢と社会貢献する姿勢（高

い志のもと、高度な知識と探究心を持ち、何事にも失敗を恐れず挑戦し、地域社会や日本・世界の課題解決に向けて意欲的に貢献しようとする姿勢を育む）。3. 他者との協働と豊かな人間性（様々な人々との関わりの中で他者と積極的に協働しながら、個性や感性を生かした豊かな人間性を育む）。4. 文理の枠を超えるしなやかな知性と新たな価値を生み出す力（教育活動全般をとおして、科学的素養・国際感覚を養い、文理の枠を超える広い視野と論理的な思考力・価値を創造する力を育む）。

令和8年度に創立140周年を迎えますが、過去から未来へつなげるという意味では今回策定したスクール・ポリシーの意義は大きいと考えております。不動岡高校の20年先の30年先の未来は過去から受け継いだ現在の教育をいかに充実・発展させるかにかかっています。引き続き、会員の皆様には、不動岡高校の未来のために一層の御支援・御指導を賜われますようお願い申し上げます。

学友の集い（学友会総会） 開催のご案内

学友の集い（学友会総会）を下記の通り開催いたします。

お問い合わせの上ぜひご参加ください。

日時 令和7年11月16日（日）
12：00 受付開始（1F事務室前）
13：00 総会開会（不動岡ホール）
14：00 講演 129回生 酒巻 宙希氏
「世界を巡ったパスポート」
15：00 懇親会（百周年記念館）

会場 埼玉県立不動岡高等学校
※懇親会費3,000円は当日受付で集金いたします。

（古希の皆様、慶祝表彰に該当される方はご招待ですので、無料です。）

詳細につきましては、同封の案内をご覧ください。

2025年度 慶祝者名一覽 (敬称略)

野口 徳泰 (66回生) 瑞宝双光章	小澤 和恵 (90回生)
松本 直衛 (67回生) 瑞宝双光章	埼玉純真短期大学長
伊藤 伸一 (68回生) 瑞宝双光章	田井 鉄男 (90回生)
町田 社要 (68回生) 瑞宝双光章	医学博士 (医学研究科)
根岸 規雄 (72回生)	羽田 邦弘 (90回生)
フランス共和国農功賞シュバリエ章	東京学芸大学付属高等学校長
榎本 正美 (82回生) 瑞宝双光章	川島 規行 (95回生)
為谷 健一 (82回生) 瑞宝単光章	羽生市教育委員会教育長
加村 啓二 (84回生) 旭日小綬章	影沢 政司 (97回生)
梅沢 清真 (84回生)	埼玉県議会事務局長
大野 弘 (84回生)	橋本 智己 (99回生)
厚生労働大臣表彰	埼玉工業大学教授 工学博士
三谷 和正 (85回生) 瑞宝単光章	小林 稔 (106回生)
小野田好造 (86回生) 瑞宝双光章	福岡工業大学情報工学科情報マ
澤田 裕二 (89回生)	ネージメント学科教授
厚生労働大臣表彰	(令和6年7月から令和7年6月末 日までに推薦があった方)

学友会表彰について

学友会の表彰は、左記の表彰規程により、自薦または他薦にてご連絡を頂いた方となっております。該当又は、推薦される方は学校（学友会事務局）にご連絡をお願いいたします。

- 1 県市町村の首長、国会・県会議員に選出された者
 - 2 学位を受けた者
 - 3 国の褒章を受けた者
 - 4 国またはこれに準ずる団体や県等の賞状を受賞し功績が顕著な者
 - 5 学術文化上特に功績が顕著であり会長が認めた者
 - 6 県内公立学校長、県職部長等に補せられた者
 - 7 本校に13年以上勤続された教職員
 - 8 本会会務の運営に多大の貢献をした者
 - 9 前各号以外で特に会長が慶祝表彰に値すると認めたと者
- ※特に企業において活躍されていらっしゃる方を推薦ください。
なお、学友会だよりに掲載する都合上、6月末日までにご連絡をいただけると幸いです。

古希祝のご案内

86回生の皆様へ

11月16日に行われる学友会総会・懇親会に、古希を迎えられる86回生の皆様をご招待いたします。

現在の不動岡高校をご覧いただき、級友や先輩、後輩との話に花を咲かせていただければと思います。

86回生の方

昭和49年（1974）3月卒業
生年月日（参考）
昭和30年4月2日（昭和31年4月1日）
・懇親会費は無料です。
・古希の皆様に向けたイベントを用意しております。

申し込み方法

学友会だよりに同封の返信はがきの回生欄に「86回生」とお書きいただくだけで結構です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

87回生の皆様への協力依頼

来年は87回生の皆様をご招待いたします。

古希のお祝いについて学友会事務局と企画調整にご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ご連絡をお願いします。

不動岡高校学友会ホームページ
(<http://gakuyu.fudooka-h.ed.jp>)

今年度学友会総会 講演者紹介

講演者

元バンコク日本人学校

酒巻

ひろき 宙希 (129回生)
中学部教諭



講演

「世界を巡ったパスポート」

不動岡高校を2017年（平成29年）に卒業し、教員になることを目指し、東京学芸大学に進学、教育学部で技術科を専攻しました。大学在学中、授業でタイの大学生と交換留学をしたり、趣味のスポーツ観戦や旅行で海外に行ったりすることをきっかけに、海外に住みそこで働くことに興味を持ちました。

そして、2021年（令和3年）に大学を卒業し、バンコク日本人学校で教員としての勤務と、バンコクでの1人暮らしが始まりました。赴任当時はコロナ禍の真っ只中ということもあ

り、飛行機の搭乗率は50%以下で、出発前と到着後のPCR検査に加え、10日間のホテルでの隔離義務がありました。その期間は職場のオンライン研修や授業準備で大忙しと思ったら、提供された食事でウイルス性食物中毒に遭い、初の救急車で入院騒動、といった洗礼を受けながら、怒涛のタイ生活が始まりました。そこから、教員としてはもちろん、海外での生活という多くの経験をしなが、3年間勤務しました。

その後、タイの3年間で出会った人の影響が大きく、もともと色々な国を自分の目で見たくなり、せっかく行くなら1年間かけて世界一周することを決意し、アフリカ、中南米を中心に1年間で46ヶ国を訪れてきました。

そして、今回の講演では、私自身が実際に見聞きしたことや感じたことについて、全て実体験をもとに話をさせていただこうと思っています。

海外に興味がある方も、そうでない方も有意義な時間にできればと思っています。当日はどうぞよろしく願いたします。



料理人になりたくて！

根岸 規雄 (72 回生)

当時、料理人になるには縁故か知人の紹介がなければ働く職場を見つけることが難しい時代であった。田舎者の私にとって縁故も縁者もなくどうしたら料理人として働く職場を見つけることができるか、偶然に Y M C A にホテル学校があることを知る。学校に向いて入学案内を入手して受験することに決めた。この学校を卒業すれば料理人になる道が開けると思った。開業1年前にホテルオークラ東京に入社。

ホテルオークラの面接では「君のような体力のない者が料理人としてやっていけるか」と問われて、「できます！」と返答したことを克明に覚えている。

これからの時代は、料理人であっても英語力が必要だというホテルオークラの教育方針で四谷にある日米英会話学校に通った。

私の研修先はホテルニュージャパンだった。



研修が終わって出来上がったばかりのホテルオークラに戻った。

1962年5月20日にホテルオークラ開業。私の料理人としてのスタート。ここで私が師として最も敬愛する小野正吉氏と出会う。25歳までに何としてもフランス料理の本場にとフランスかフランス料理を主とする国に行くことが私の目標だった。25歳までにフランス料理の基本を身につけなければならない。

どうしたら海外研修に行く手段があるか、当時大使付きはあったが自分の希望の国には行くことは出来な

いと思った。偶然に、全日本司厨士協会で定期的に若い料理人をスイスに派遣している制度があることを知り、対象者の資格は料理経験5年以上で私も応募資格があった。この制度を確立した方は横浜ホテルニューグランドの初代料理長のサリーワイ

ル氏であった。氏がスイスに帰国後、「日本の若い料理人をスイスで料理の経験と研鑽をさせたい」という主旨であった。この恩恵を受けた若い料理人は少なかつた。氏は日本における洋食の礎を築いた偉大な料



理人で功労者である。

幸運にもスイス行きチャンスが巡ってきた。「諦めなければチャンスある！」ことを確信した。1966年6月25日に羽田空港よりス

イスへ。最初の職場はスイス時計の主産地であるラ・ショ・ド・フォンという町の駅舎内のレストラン。現在では世界遺産に登録された碁盤の目の美しい町である。ここで1年間働く。2年目にローザンヌ・パラスホテルで働く。料理長はフードコン

トロールに厳しかった。無駄にしないスイス人の生活信条がそのままだが、その頃の日本は消費が美德と言われる時代であった。

2年半のスイスでの研修期間が終るころに、ホテルオークラ野田岩次社長(当時)の紹介で1968年に念願のパリ、ホテル・ジョルジュサ

ンクへ。フランス料理の良き時代の名残が残ってフードコストの観念がなく、スイスとは正反対であった。旨い料理をつくるのに生クリーム、ワイン、そしてバターは使い放題、常時冷蔵庫には20キロのバターの塊が用意さ



れていた。料理人の私にとっては、両国での貴重な体験が帰国後に大いに役立った。

1972年7月に5年ぶりに帰国する。ホテルオークラに再就職。

宴会部門の魚を専門に料理をするポワソニエに配属され、このセクションで18年間やり続けた。メインダイニングのオーキッドレストランに異動。仕事の内容が多岐で料理はホテルオークラの味を維持しなければならなかった。最も悩まされたのがメニュー作成、フードコストと労

務管理。レストランの経営者のごとくであった。集客増をどうするか、収益は、お客様のコンプレインの対応処理等々、細部まで把握するのに1年を要した。

約2年半ようやく慣れたてきたと思ったらテラスレストランに異動。このレストランのコンセプトは和洋折衷フランス料理の味香りに慣れていたのが、この調理場内の香りが、

しょう油とフランス料理の代表的なデミソースの香り漂う調理場の雰囲気慣れるまでに時間を要した。テラスレストランはオープンしたらクロスタイム無しで気の抜けない超多

忙な職場であった。テラスレストランで2年半そろそろ定年を迎える時期が視野に入ってきたので身の振り方を考えなければならぬと...

ホテルオークラ開業以来伝統のコンソメも夏になると水っぽいというコンプレインがあり、いつもの通り

作っているとの返答。どうしたらお客様に理解をしていただけるか長い間考え続けた末に思いついたのが旨味を数値で表す事だった。毎回のコンソメを仕込んだ後に味のチェック

と同時に糖度計で旨味成分を計って記録をさせて旨味成分で対応した。現場から総括管理のホテルオークラ東京の調理事務所にそして総料理長に。

総料理長に就任してからは和食、中華と洋食のフードコストコントロール、人件費、社員の育成、組織運営、集客力を上げる企画に知恵を絞った。

約10年間総料理長を全うすることができたのは私を支えてくれたスタッフのお陰であると感謝の気持ちでいっぱいである。

一料理人としてホテルオークラ東京の経営にも参画。取締役会、株主総会と貴重な体験をした。皆さんのお力添えで50年の料理人人生をやる切ることができた。

ありがとう！
総料理長期間中に国賓で来日のハラルノルウェー国王御夫妻、アメリカブッシュ大統領、フランスミッテラン大統領、フランスシラク大統領、ギユスタグスエーデン国王御夫妻国賓で来日の折に接遇する機会にめぐまれた。

オークラ東京の経営理念ベス ACS 施設、料理、サービス、世界をもてなすホテルオークラ、私が

もつとも敬愛する故小野ムッシュの語録。

* 客よりもうまいものを食べ。

* 癖のある奴はどうまいものを作る。

* 料理人の資質は素材に寄り添うこと。

* 料理人は一生懸命勉強だ。

* 食材を無駄にするな。

* 開業時のスローガン…帝国ホテルに追いつけ追い越せ！

「学友会古希の祝いの招待をうけて」

小野田 幸夫 (85回生)

85回卒の皆さんは令和6年9月29日に大宮パレスホテルにて117名の出席のもと同窓会を行っていました。令和6年11月17日(日)の不動岡高校学友会総会には49名が参加しました。総会の後の懇親会には56名の参加となりました。

総会は不動岡ホールに百名余りの学友が集まり、滞りなく、令和5年度の会務報告や収支決算報告、令和6年度会務計画案や収支予算案が可決されました。16名に及ぶ慶祝者の表彰も行われました。記念講演として90回卒横浜市立大学医学部教授副学長の小川毅彦氏による「基礎医学研究者に憧れて」という題目で小川氏の医学の道に進み現在に至るまでのことを拝聴しました。健康のありがたみや医学のすばらしさを知りとてもすばらしい講演でした。総会の締めは応援団の演舞により校歌を全

員で声高らかに歌いました。

総会の後は会場を記念館食堂に移して懇親会を行いました。85回卒業生ばかりでなく様々な年齢の学友が一堂に会し、胸の名札を手掛かりに高校時代の面影をたどりました。年代を超えて先輩や後輩とも話ができ楽しい時を過ごしました。年代ごとの記念写真も撮りました。後日、出席された85回卒業生の集合写真を含み総会と懇親会の写真をアルバムにして配布しました。皆さん楽しい思い出ができ喜んでいただけたことと思います。



同窓会報告

85期同窓会

高野 (高鳥) 和子 (85回生)

私達85期生は、入学時、男女混合4クラス男子クラス4クラスという編成でした。2年生、3年生は男子クラス、女子クラスだけでしたので、先輩方から羨ましがられました。小・中と男女混合だったので、女子にとっては違和感なかったのですが、男子クラスの人達は羨ましかったそうです。色々な行事や部活動などで男女仲良く活動して、楽しい学校生活でした。

40代に入り、「85期の皆に会いたいね。」という声が多く、「卒業30年目の集い」を2020年8月、大宮パレスホテルで開催しました。7名の先生方も参加下さり、157名参加。一次会、二次会と盛り上がりしました。

初めての同窓会の評判が良く、準備や当日のお手伝いの方も増え、「5年後にまた…」というようになり、2007年、2012年そして2017年10月、母校での同窓会と続きました。

その後、コロナ禍もあり、「もう開催は無理かもしれない。」と思ったのですが、「5年後は無理でも古希のお祝いを皆でしよう。」と2024年9月29日、大宮パレスホテルで五回目の同窓会が開催できました。奈良先生と清水先生も参加され、1

17名参加。最後に元応援部の斉藤君、柿沼君のリードで校歌を全員で斉唱しました。皆の声が会場いっぱいに響きわたりました。同窓会に初めて参加した人から、「今日参加して良かった。元気をもらった気がする。楽しかった。ありがとうございました。」と喜びの声をいただき、感動しました。

同窓会をきっかけに、高校時代に一度も話したこともなかった友達と仲良くなり、食事会などをするようになったとか、クラス会をするようになったというお話も聞きました。同期が集まると、若い頃は高校時代の話や仕事の話、子育ての話など、今は親の介護の話、病気の話など、



話題は変化したようです。一次会の2時間では、もの足りないようで、参加された方が「もっと話したいね。」と、いくつかのグループに分かれ、二次会の会場へと向かっていきました。

学友会館にこだまする

校歌・応援歌

今成 貞昭 (91回生)

「富士と筑波の峰清く、仰ぐ不動ヶ岡の上」大合唱が響いた母校学友会館。秋晴れに恵まれた2024年10月13日(土)、第91回生同窓会が盛大に開かれた。

コロナ禍を経て3回目の開催。平成24年から実に12年ぶりの開催となった。参加人数は、恩師6名を入れて総勢135名。

開催に当たって、クラス毎に幹事を募り、個別に住所の掘り起こしをしたことが多くの参加者につながったとみられる。

幹事の羽鳥隆行君が司会、開会宣言は幹事の大竹章夫君、代表挨拶は元生徒会長清野定信君、そして中島睦雄先生の御発声で乾杯となった。懇談が始まり御参加いただいた先生方全員から一言御挨拶をいただいた。会場には、プロのバイオリンとチェロの生演奏が響きパーティに花を添える。また、スクリーンに現役当時の写真が映し出されると会場のあちこちから大きな笑いが起きた。





12年ぶりの開催ということもあり話題も尽きず、あつという間に2時間を経て14時過ぎに。締めは恒例の校歌・応援歌合唱。今回指揮を執るのは、第56代応援団長、現在大学四年生の堀越琢斗君。太鼓は幹事で14代応援団長の杉田智信君。そらで歌える人も多く歌詞を見ないでの大合唱で開きとなった。幹事の肝いりで配った校章焼印の十万石まんじゅうが、開けてびっくりで大好評だった。

今回、御多忙の中御参加いただいた恩師の先生方、学友会館を快くお



貸いただいた関根憲夫校長先生ほか学校関係者の皆さんに心から御礼を申し上げます。
皆さん、また5年後（卒業50周年）にお会いしましょう。

95回生3年5組

クラス会報告

菊池 幸江（95回生）

2024年11月23日95回生3年5組のクラス会と不動岡高校見学がありました。

2016年に95回生同窓会が開催され、その後2018年2019年2024年とクラス会を開き交流を

重ね、クラスラインを作ってから頻りに連絡を取り合うようになっていきました。2024年夏の高校野球大会期間中は不動岡高校野球部の活躍にクラスラインが盛り上がりました。その時に高校に行ってみたいとの声が上がって、つてを頼りに高校見学の希望を伝えると、まさかの関根校長先生に案内していただける展開となりました。

高校見学当日は快晴、加須駅から懐かしい通学路を歩き、担任だった小林先生をはじめ14名が集合しました。立派な校舎に感嘆の声をあげ、広い構内が大学のキャンパスのようと感じました。思い出のあるポプラ並木はなくなっており42年の歳月を感じたものの、北グラウンドやテニスコート、体育館、そして中庭の藤棚と池、そこかしこに懐かしい場所が残っていました。高校生だった頃の自分に思いをはせながら、皆と当時の思い出話でワイワイと盛り上がりました。

高校全体が充実した環境に整えられていて生徒さんを大切に育んでいる様子が伺えました。私達の高校時代もこんな風に温かく育てていただいていたのかなと改めて感謝の念が湧いてきました。

関根校長先生は私達の1学年下で同時代ということもあり、懐かしの昔話がたくさん伺え楽しさも倍増でした。お忙しい中ユーモア溢れる案内をしていただき本当に感謝の念に堪えません。

資料室に飾られた「質実剛健」タオル、キーホルダー（ストラップ？）

に惹かれた者も多く、140周年記念に手に入れるチャンスがありそうと期待をしつつ高校を後にしました。クラス会は加須市の「会席ギャラリーからん」にて行い17名参加、還暦祝いと称しての賑やかな会となりました。

2001年卒業生の

同窓会開催のご報告

坂井 靖治（113回生）

拝啓 秋冷の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび2001年度卒業生による同窓会を11月23日、綴会場にて開催いたしましたので、ご報告申し上げます。

当日は、遠方からお越しいただいた方も含め、約60名の同窓生が集まり、懐かしい顔ぶれとともに旧交を温める貴重なひとときとなりました。久しぶりの再会に、当時の思い出話に花が咲き、笑い声が絶えない賑やかな会となりました。

また、会の後半では「クイズ大会」を企画し、大いに盛り上がりました。当時の学校生活や学年にちなんだ問題を中心に出題し、懐かしい記憶を共有する場面が多々ありました。各順位に応じた記念品を用意し、思い出に残る楽しいイベントとなつたことを嬉しく思っております。準備段階では試行錯誤もありましたが、当日の皆様の笑顔や温かい反応に触れ、企画した甲斐を感じる記憶と記録に残る会となりました。

今回の同窓会では、ただ懐かしい



思い出に触れるだけでなく、各自の近況報告や今後の目標についても語り合う場となり、同窓生としての絆を一層深めることができました。ご参加いただいた皆様のご協力のおかげで、無事に会を終えることができましたことに心より感謝申し上げます。最後に、今回都合が合わずご参加いただけなかった方々にも、この場を借りてお礼を申し上げますとともに、次回の再会を心より楽しみにしております。今後とも、同窓生としてのつながりを大切にしながら、互いに支え合い、励まし合える関係を築いていきたいと考えております。

敬具



おかげ様で不動岡高校は 令和8年（2026）創立140周年を迎えます

「加須市立童謡のふる里 おおとね図書館（ノイエ）」前庭に
中島睦雄作『空に向かって』が設置されました

中島睦雄先生の米寿を祝う実行委員会
事務局 松永 康（88回生）



除幕式（2024年10月25日）

友人方に関しては、全員に声をかけると数千人になってしまうので、ごく親しくされている人のみに限らせていただきました。余談ですが、中島先生は「俺が市長選に出ると今の市長が落選してしまうから出ない」と言うくらい交友関係の広さを自負しています。実は現加須市長の角田氏もまた、美術部の卒業生だったのです。

一方で門下生への声かけをするにあたり、どれくらいの人に来てくれるか正直心配でした。ところが、住所がわかった150人ほどに通知したところ、50人を超える方々に参集いただけました。三打数一安打と言えば大谷翔平並みですが、退職後40〜50年を経てこれだけの人を集められるのですから、たしかにその人望の厚さは推して知るべしです。いずれにしてもこの計画は、ここにお集まりいただいた方々の賛同を得てスタートしたということです。

さて、中島先生は永く彫刻家として活動されてきましたが、その作風については少し説明が必要でしょう。制作方法は、大きく分けて「塑像」、「石彫」、「型取り」の三つのタイプがあります。

「塑像」は近代美術の典型であるオーソドックスな人物像。「石彫」がちよつと変わっていて、石の表面に抽象的な模様を彫り込んでゆき、伝統工芸を思わせる繊細な作品に仕上がります。そしてもうひとつが「型取り」。戦後から始まるいわゆる「現代美術」の中で生まれた、原型から直接型を取っていく技法です。

つまり中島睦雄という美術家は、伝統美術から現代美術まで一人でこなしてしまう人だったのです。私も仕事柄、たくさんの方の美術家を見てきましたが、これだけ幅広い作品を作っているのは中島先生を置いて他にいないように思われます。

ところで、中島先生の彫刻作品はこれまでさまざまな公共の場に置かれてきました。しかし前記の分類で言う「塑像」と「石彫」のみで、「型取り」作品を公の場で目にすることはできませんでした。今回ここに置かれたことで、ようやく中島作品の全貌が見られるようになったわけです。

最後になりますが、本作品の設置に当たり角田市長、大利根支所の田村支所長、農政建設課の大熊課長と斉藤様、それにおおとね図書館の斉藤館長にはたいへんお世話になりました。また設置に係った費用は、友人の方々と門下生の寄付で賄うことができました。そしてなにより、88年間こうした実績を積み上げてこられた中島先生に深くお礼を申し上げます。

人生百年と言われるこの時代。中島先生には引き続き、私たちへのご指導ご鞭撻をいただけるようお願いいたします。

*「中島睦雄先生の米寿を祝う会」については本誌六七号で報告済み



「空に向かって」中島睦雄 作

第4回 不動岡高等学校

卒業生による美術展

〜ときを超えて〜

2025年10月23日（木）〜26日（日）

10時〜17時まで

加須文化・学習センター

パストラルかぞ展示室

詳細につきましては、お問合せください。
（事務局 松永

090-7227-5863）



前回の会場風景 高橋和一（中普12回生）撮影

関連事業同時開催

「生徒による生徒のための美術展」

10月25日（土） 12時〜17時

10月26日（日） 10時〜15時

パストラルかぞ 和室2・3

※在校生11名の立体作品が展示されます。詳細はお問い合わせください。（不動岡高等学校 大木 090-2314-8733）



文化祭報告

今年は5月31日(土)・6月1日(日)に開催されました。

初日の土曜日は生憎の雨模様でしたが、両日ともたくさんの来場者でにぎわいました。

今年は「校章入り瓦せんべい」2枚入り100円や、ジェットストリームのボールペン(不動岡高等学校ネーム入り)1本200円など、新しい企画も考えてみました。特に瓦せんべいは人気で初日に完売してしまい、二日目に来場された皆さんには申し訳なく思っています。ボールペンは黒のインクで、グリップ部分の色を5色(黒、青、ラベンダー、スカイブルー、ライトピンク)各色50本用意しました。一番人気がラベンダーで、今現在4本の在庫です。また、毎年好評の質実剛健ポロシャツも完売!今年は文化祭が終わってから在校生女子が質実剛健ポロシャツを「かっこいい!」と購入してくれてとても嬉しく「また何かに在校生にも喜んでもらえるものを考えよう」と考えています。ほんの少しの工夫で

すが、胸ポケットをつけたものをすでに制作しました。そのほかにも期待してお待ちください。

ちなみに大好評の「校章入り瓦せんべい」は本校OBの店に発注しました。来年は数を増やしてお待ちします。そして、他にも加須にちなんだものや、OBに関係するものなど、来年に向けて検討したいと思いますので、アイデアをお持ちの方、ぜひご連絡お待ちします。学友会HPのお問い合わせフォームからどうぞ!

母校の文化祭で旧交を温めるのもよいものです。ぜひお待ちします。

今年は、まったく突然のことでしたが文化祭中に「埼玉県立不動岡中学校」時代の生徒のことで、東北大学の先生方の訪問を受けました。

これについてはとても興味深く、示唆に富んだ内容でしたので別に記事を書きました。ぜひお読みください。

では、何枚か文化祭の様子がわかる写真を載せますので、母校の文化祭の雰囲気味わってください。



100年前の英文レター



中央に向かって右 吉野賢特任教授、左 川内淳史准教授

きませんでした。でも、「私たちの100年前の先輩が何か歴史に残ることをしているのかも知れない」「東北大学の教授はどんなことを研究調査しているのだろう」「とにかくお話を伺いたい」という気持ちで、学友会メンバーがそろって文化祭の日にいっしょに訪れていただく約束をしました。

文化祭二日目の6月1日、東北大学吉野特任教授、歴史学博士の川内淳史准教授のほかTBSの報道局社会部記者、カメラマンの方など取材同行され、校長先生と私たち学友会役員とで応接室でお話を伺いました。

以下は、東北大学と世界防災フォーラムのプレスリリースからの抜粋です。

5月12日不動岡高等学校校長あてに東北大学から書面が届きました。

差出人は東北大学災害科学国際研究所 上廣防災学寄附研究部門 特任教授 吉野 賢氏 書面は「突然のお便りお許しください。私たちは東北大学で関東大震災について調査しています。」とはじまり、たくさんの資料が同封されていました。

そして、吉野特任教授率いる東北大学災害科学国際研究所と一般財団法人世界防災フォーラムの合同チームが、「100年前の関東大震災の際にお礼の手紙を書いた当時の学生のことを調べている」とその資料には書かれていました。

関根校長先生からそのお話をいただいた時、学友会ではまだ何のことか皆目見当がつ

「1923年9月の関東大震災発生後、日本には世界中から援助が届き、中でもアメリカからは莫大かつ迅速な「前例のない支援」が行われました。震災当時の日米関係は必ずしも良好ではありませんでしたが、両国はこれを機に関係改善を目指し日本からアメリカに様々な形で感謝の意が表されました。その一つが日本の学生たちからアメリカ国民に対する感謝の手紙の送付です。調査により774通の感謝状が震災当時のアメリカ大統領であったカルビン・クーリッジの子孫のもとに保存されていることが明らかになりました。それらの手紙には感謝の気持ちのほかに、日米友好と世界平和の願いも綴られており、「災害外交の一環」ととらえることができます。震災時に展開された「災害外交」の好例と評価でき、今日の国際防災にも大きな示唆を与えます。世界防災フォーラムではこの調査研究を進展させるため、手紙を書いた学生の子孫を探すプロジェクトを開始しています。「100年前の手紙プロジェクト(クーリッジ未来プロジェクト)」



その子孫までの情報があるはずがありません。曾祖父、曾祖母の時代です。資料だけではなく、つながりが大切だということを実感しました。今後もこのプロジェクトは続いていくとのことでしたので、29名の生徒の子孫探しをお約束しましたが、まだ少しも取り掛かれていません。学友の皆様にご協力を仰げたらと考えています。

吉野特任教授のお手紙の一部です。

この744通の手紙の中の29通が埼玉県立不動岡中学校の生徒たち、つまり我々の先輩たちだったのです。旧制中学校から出されている手紙では順天中学校に次いで二番目に多い通数でした。

学友会資料室で過去の名簿を探し、名前を見つけた時には事実だったことに感激しました。校友会報（当時の学友会だよりのようなもの）から当時の様子がわかる情報を探し出した時には「もつと何かあるかも」と興奮しました。私たちが普段整理に困り、持て余している過去の資料の大切さを実感しました。でも、さすがに100年前の資料ですから、

「私たちは手紙を書いた学生さんの子孫の方を探しています。学生さんの手紙には、米国の支援への御礼はもちろん、日米友好、平和の大切さなどが記載されています。しかし、日米はその後20年もたたないうちに戦火を交えることになりました。手紙を書いた学生さんの生き様などをお聞きすることによって、平和の大切さなどを説くことに繋がればと考えております。」

私たち卒業生の会である学友会も、過去に学び未来を切り開く不動岡高校生を育てる環境を整えるために、努力を重ねていきたいと思っています。

日本人学生からの手紙で 不動岡中学校生徒が多かった理由を考える

木村 純 （90回生）

第4代の肥留川鷲雄校長（在職大正5（昭和5））の考えのもとで校内プロジェクトとして進められたと考えられます。肥留川校長は、明治29年4月の第7回の不動岡中学校卒業生であり、本学卒業生で初の校長就任者でした。氏は、東京高等師範学校卒業で、当時、懸案の多かった母校の立て直

しのため、請われて木更津中学校の教頭から着任しました。校長兼教諭として数学、英語、修身の授業にも出ておられたという記録もあります。30歳代で就任しているわけですが、従七位と叙位されており、当時の校長の権威、そして権限を持っていたことが十分に推察されます。肥留川校長の主

導で、大正8年の本校での渋沢栄一翁の講演会が実現されたことが、きっかけであったと考えられます。講演実現に向け、間に入ったのが本学15回卒業生で、当時日本興業銀行員であった梅澤慎六氏（正八位陸軍三等主計）です。渋沢栄一は、日本興業銀行の創設者の一人で、当時大倉喜八郎や安田善次郎とともに興銀の監査役を務めており、その縁で講演会が実現されました。

肥留川校長は渋沢栄一を強く信望しており、不動岡中学校生徒にもお話を聞かせたいという意向が実現につながったと考えられます。「質実剛健」の揮毫も肥留川校長の依頼で実現に至りました。肥留川校長は校長室で79歳にして熱い渋沢の話を聞き、より渋沢への畏敬の念が深まったと推察します。ここで、渋沢栄一と肥留川校長、不動岡中学校の関係性ができたようです。

渋沢栄一は、ご存じの通り実際に訪米し、その産業、経済、軍事等の国のスケールの大きさを実感し、この国と絶対に戦争をしないという持論でした。アメリカで排日運動が始まったことに対し、大正5年には、日米の関係改善を目的とした日米関係委員会を結成しています。大正12年の関東大震災を受けてのアメリカからの支援。「転んでもただでは起きぬ」とばかりにこの機会に、感謝の手紙をと渋沢が考え、実行に移させたのは考えられることです。本人は表に出ず、動かす立場をとるのは晩年の渋沢らしい手法です。

また、昭和2年にはアメリカから日米親善を願って約12000体の人形が日本に送られます。目的は、排日移民問題が過熱するアメリカ社会に歯止めをかけるために、日本とアメリカの子供たちに友情交流を結ぶことでした。渋沢は、日本国際児童親善会という組織を立ち上げ、「青い目の人形」

の実現に大きく関わっています。渋沢は、協会などの組織を立ち上げ、国や各機関を巻き込みながら進めることが多かったようです。ですから、手紙を送った団体もそういう目的で作られた経緯が考えられます。

さて、不動岡中学校からの手紙が多かったかという本論に戻ります。一つは、本校に講演を通じたい感触を持ち、肥留川校長とパイプの出来た渋沢が直接依頼したということが考えられます。次にそこまではいなくても、通知文を見てその団体に渋沢の名前を見た、肥留川校長がお礼の意味を込めてその応募に応じた。三つめは、肥留川校長が通知文を見て、渋沢の持論を校長室で聞いていたため、力になればと判断し実行に移した。ということが考えられます。いずれにしても、渋沢栄一との関係性で進められたものだと思います。

学校をあげてのプロジェクトで、多くの生徒が手紙を書き、応募したということ。さらに、肥留川校長を始め、英語に堪能な教員が生徒の書いたものに指導の手を入れ、英文的にも、内容的にも先方に失礼のない文章にしたことも考えられます。例えば、手紙が送られた高等女学校の欄で上位は、ミッション系の学校が目立っています。当然、欧米人の教員がおり、英文的にも内容的にも十分指導の手が入りやすい環境にあったことが想定できます。内容的に問題のない文章であることも採用の大きな要因です。

これらのことが、不動岡中学校が全国の中学校の中で、順天中学校に次いで二番目に多い29通が送られているということの根拠になるのではないのでしょうか。いずれにしても、現段階では、推論に過ぎない、お礼の手紙を送った団体と渋沢栄一との関係性が明らかにすることを願ってやみません。

敬称略・順不同

おかげ様で不動岡高校は **令和 8 年（2026）** 創立 **140** 周年を迎えます

古沢正一	岩崎房子	山口弘	鈴木晴男	森義光	田島栄子	荒本文郎	福島祐一	野口時雨	對比地紳二	田村健一	松永文夫
程塚秀夫	武正光江	鎗田和男	関根雅彦	矢島仁	清水和子	岡野和子	宮内和人	増田敏子	石嶋明男	藤倉広幸	石田良平
松村行男	唯木由紀子	赤坂孝	田島秀次	宇津木勝広	高野和子	小野田好造	宮内和夫	新井玲子	吉田正	矢野晴久	川上良一
山崎茂	岡田悦子	石塚孝義	矢島文夫	梅澤孝雄	秋山広子	石塚正弘	柳沢啓一	角田三枝	江森京美	飯野光博	鈴木英
小澤達男	木下光江	大熊静夫	野村邦実	大島純	青木恵一	船川喜正	柳沢公	中島一郎	渡邊万里子	池田泰人	野中信英
小池正則	秋葉清一郎	斉藤守	新井健一	神田茂	荒井達男	奥沢寿子	渡延公	長井誠	萩野博恵	大戸孝樹	長谷川繁雄
小林格	内田益栄	杉田知宣	大澤敏雄	小島英世	新井保	小林くみ子	《87回生》	梨本松男	小林弥太郎	福田寺和一郎	伊藤千佳子
鳥海和彦	江黒正男	永島茂	加村啓二	小林幹央	齋藤真澄	加藤真澄	藤田博史	新方和明	齋藤規生	本山明宏	新井健一
渡辺洋一	落合理	荳戸竹彦	川羽清治	駒井博晃	大塚孝司	大塚孝司	鎮守町子	渡辺肇	沖野和子	森正弘	石井伯夫
井上政彦	黒須文夫	野口寿夫	鳥羽清治	齋藤尚夫	竹澤茂樹	大塚孝司	木村弘	奥律智世子	小倉久義	山口正人	小島弘幸
清水亨	長澤清輝	蛭間眞一	長島孝明	杉田広之	橋本賢一	瀧澤則夫	中利幸	関根久美子	小澤幸夫	三浦佳奈美	酒巻剛
関根剛	和岡忠	細井賢	平澤香	関口昭	橋本賢一	中村仁	西川恒子	関根久美子	小野田榮	小島明子	島野亮一
染谷源治	網野博美	《84回生》	町田知啓	矢島仁	福島誠二	堀越義二	桜井真二	江森利之	金井進	加藤修	野口浩一
坪井和雄	梅沢康次	須永典子	山崎政男	吉田正義	矢島嘉太郎	森川典明	瀬山良一	関口純	川田尚徳	小川雅章	夢川安典
三木和明	岡栄一	中田広子	和島元司	星崎美智子	山口清貴	山本耕司	植松和子	関根均	酒井春雄	井上貴久雄	野本文子
大塚孝	荻山芳朗	石川一江	五十嵐滋之	藤谷智子	太田和子	吉永直明	松崎和香子	森泉堪司	中島守	高瀬明	荒川陽介
川辺隆一	川島孝之	石渡澄子	江川茂木	小林政秋	島崎初枝	柏原幸子	寺山俊昭	川合寛子	酒井裕二	庄子洋子	伊藤卓
鈴木義隆	栗原律雄	荒川恵子	佐藤雅一	野本政枝	藤倉順子	柿沼重信	齋藤洋子	荒木宣子	中島裕二	鈴木久与	澤田麻希
田島実	栗原嵩	水沼とみ江	関根郁夫	石井和子	増田節子	白石博己	神崎充	川目房代	鈴木勝一	加藤美枝	西沢康男
谷川幸夫	高沢清史	関根眞由美	関口雅博	荒井弘	木村一恵	中野晃	加藤龍雄	平川秀子	鈴木久夫	島田明美	《91回生》
土岐伊弘	橋本好司	田口美佐子	関根郁夫	大塚功一	荒井信男	橋本圭吾	小山直四	加藤憲男	島崎弘明	矢島章子	小川原浩和
中村博之	松本美良	小田茂子	田島治	坂本健司	植沼浩昌	長谷川孝一	藤野一郎	加藤憲男	鈴木久夫	唐澤亨子	奥貫芳夫
岡島康文	宮崎弘行	大谷邦雄	吉野憲彦	関口哲生	植沼浩昌	山木晃	大塚登	島崎弘明	鈴木久夫	石合恵美子	川野辺忠志
野中正雄	矢島一憲	小沼重雄	岡田信彦	曾根好夫	柿沼浩昌	大塚登	《88回生》	加藤憲男	鈴木久夫	吉永信明	高橋利光
萩原昇	新井幹夫	関口浩一	山本哲久	新倉敏美	齊藤清	岸典子	岡島尚之	松本稔	永井清史	渡邊弘	青鹿洋士
松本正寿	飯田昌男	岩崎祐一	金久保浩一	星崎克裕	齋藤健司	木村千尋	岡島尚之	渡辺英治	金子正利	金子正利	新井秀夫
石井康夫	小澤研一	平澤清	木村昭	宇和野光子	坂本富夫	塩津美里	白石善己	金子正利	千代田弘一	金子正利	大島厚
岩崎修一	高田宏	蛭間一元	木村栄	北村弘美	重竹淳一	秋山幸男	山口和彦	吉野清和	奈良孝	吉野清和	小川博和
上野真澄	松本雅秋	本澤安治	須田尚治	木ノ内恵子	島村鉄也	大橋武司	渡邊昭彦	渡辺治夫	井裕康雄	坂田亨	中島一彦
小関裕雄	宮崎茂	唯島吉彦	関根良治	加藤恒子	松本保男	佐久間昇	松岡延勝	宇賀田茂彦	大澤誠	関根光民	帯津寿人
関根修一	和貝直喜	萩島和美	永田庄治	阿部伸子	渡辺進	有賀浩子	磯壽郎	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫
為谷健一	小倉健治	齋藤昭夫	田島雄二	加藤恒子	松本保男	佐久間昇	松岡延勝	宇賀田茂彦	金子文男	瀬田義雄	武正薫
野本邦夫	大島豊	齋藤昭夫	田島雄二	加藤恒子	松本保男	佐久間昇	松岡延勝	宇賀田茂彦	金子文男	瀬田義雄	武正薫
浜田光夫	小島隆	志澤健史	福田一夫	新井彰男	江川新一	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫
堀口弘	嶋村浄	菅沼洋	藤井健二	江川新一	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
《83回生》	鈴木一雄	並木勝市	三ツ木規之	江川新一	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
田邊厚子	若山勝彦	野本健一	秋山敏夫	片山秀丈	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
大野木由利江	岡野正男	長谷部忠司	荒井信明	川辺浩	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
今井弘子	中澤浩之	土生津重利	梅沢清真	杉山正	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
仁科美代子	相原慶久	馬場弘壽	大川知三	飯島正美	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
北村利江	市川明	松川令久	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
高山春美	江口進	松本臣春	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
高橋八重子	籠宮茂	吉田好文	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
木藤陽子	榎島茂	龍野宏	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
石川幸子	小磯正彦	大野弘	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
高橋妙子	野口俊和	堀越健一	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
三友薫	間庭正雄	星野守男	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
牛久保京子	森博司	増田敏雄	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫
鹿島紀子	森田勇	宮沢亘	飯島正美	中島勝彦	折原幸男	金子文男	瀬田義雄	武正薫	瀬田義雄	武正薫	武正薫



矢辺徹	小林さゆき	橋本淳一	金子茂樹	中村哲史	忍田昇一	村田悟	大久保聡司	西畑美来	石橋琢磨	飯田もみ
折原浩之	岡田時秀	松村直樹	木村忠史	三井政明	松本幸枝	《104回生》 大和田祐一	《116回生》 駒井信勝	《129回生》 小河原健	堀田優羽	鹿兒島静羅
関根真一	斉藤孝道	鈴木玲子	藤野邦夫	鈴木貴子	柿沼信和	森田健也	村田順子	野本怜菜	中西響	小山詩織
寺田昌弘	宮田由里子	福島英樹	松尾淳一	吉田淳子	秋谷栄一	相沢千冬	江森渉	菊池智也	根岸明香里	太刀川千尋
江森弘明	五味登志子	新井貴士	柿沼武夫	鈴木洋子	鯨井昌志	吉久保道明	金子隼人	角田マツカンビラ ルアニィ	根岸知花	桑原草太
木村光良	川本直弘	川野辺正史	小嶋素志	関口恭子	酒巻誠	堤光伸	福田貴裕	上原綾悟	鈴木駿宙	小林拓夢
関根章好	服部幸司	豊田雄大	小菅邦裕	末広美香	鳥海誠司	坂巻功一	橋本圭一郎	羽鳥恵子	牧内孝輔	志村真唯
富永浩一	阿部幸夫	中嶋守	佐藤安弘	荒木靖元	堀田光東	矢島徹	井開美幸	飯尾ありさ	青鹿睦士	《135回生》 須藤千陽
橋本和人	近藤秀治	石山猶之	岡安順一	岡戸光男	猪原誠一	《99回生》 山中雄介	橋本雄二郎	鈴木智明	《133回生》 安東春樹	森本遥
福島和男	張替守	荻原章	増田幸樹	竹田久和	藤岡禎一	《105回生》 小峰俊章	戸枝沙奈子	堀越雅樹	小倉直己	岡部翔太
水野浩	藤井豊久	高橋敦男	金子功	奥澤幸夫	堀口雄一朗	《106回生》 内藤貴志	益子倫行	鈴木翔宜	堀越琢斗	曾根侑夏
《92回生》 諸井寛	石川克行	千葉達也	中尾健	高橋博幸	小林秀幸	《107回生》 染谷亮太郎	船川康太	金子結希乃	金子結希乃	岡部唯佳
今井章夫	小野田誠	長島征哉	吉田昌弘	須田英治	市川智之	《108回生》 伊藤辰紀	新井亮裕	小島菜希	飯塚智生	飯塚智生
大野雅夫	川辺隆浩	木村隆	西島克典	須田英治	橋本智己	《109回生》 金子勇一	荒木菜里奈	佐藤太基	細村直子	武田那由他
笠井信孝	木村浩一	酒巻裕之	羽鳥正行	阿部恒夫	小林耕司	《110回生》 渡辺俊一	伊平憲太郎	渡辺惟	阿部咲月	森本葵
加藤敏久	酒巻裕之	辻本一成	堀口真史	大澤登	吉野安昭	《111回生》 山崎由紀子	福満崇充	柳田恭佑	前田風	加村賢太
神澤秀明	蓮実忠夫	中村孝広	矢島浩二	香西知子	岡戸康彦	《112回生》 新井雄一郎	飯島春美	荒川未実	柳田恭佑	松下野乃佳
佐藤浩司	山下和宏	増田勝彦	中里美佳	五月女亜由美	山崎由紀子	《113回生》 齋藤麗	貝塚翔太	小森緒音	荒川未実	齋藤翔
渕野昌弘	湯浅徹	矢嶋正俊	飯野浩一	竹之内久美子	須田亜矢子	《114回生》 幸谷智	北林はる菜	和泉結花	小林陽彩奈	熊谷駿太郎
飯田智之	青木正	内田靖	後藤雄介	松本剛明	松本毅	《115回生》 川島一伸	串田巖	中里善匡	宮本龍一	會田圭
遠藤陽一	飯島勝美	関口義則	塚原浩一	大塩渉	金子隆浩	《116回生》 谷口博太	笠原慶太	石井貴大	宮本龍一	堀米桃子
木村力	関島勝美	田島秀郎	新島浩	中川雅弘	折原義彦	《117回生》 渡辺千恵子	飯島昌史	高橋昌史	石嶋祥	金子若奈
甲山浩	田島秀郎	増田みさ江	長島久義	栗原由美子	金子政弘	《118回生》 福島啓之	武正泰史	夢川大樹	小林陽彩奈	田中あみ
染谷峰雄	服部敬人	石井博	矢島雅史	手塚ちはる	並木智雄	《119回生》 齋藤麗	野澤茜	岩村渚	岩村渚	藤井俊丞
直江啓市	長谷部理恵	松本雄一	松本雄一	手塚ちはる	矢沢文朗	《120回生》 新井邦行	野澤茜	岩村渚	岩村渚	藤井俊丞
萩原由浩	《93回生》 長谷部理恵	山脇貞行	高田真代	熊谷壽	中里典夫	《121回生》 福島啓之	北林はる菜	和泉結花	小林陽彩奈	熊谷駿太郎
福澤理	杉田勝	遠山直子	熊谷壽	油井貴徳	金子政弘	《122回生》 幸谷智	串田巖	中里善匡	宮本龍一	會田圭
三浦甫	竹内浩之	五月女一義	花井稔	井上裕文	真中敏彦	《123回生》 川島一伸	渡辺千恵子	高橋昌史	石嶋祥	金子若奈
赤坂由美	柳橋康一	春原新吾	東沢勉	細村拓也	水口淳子	《124回生》 中村重継	長谷川明男	萩野光生	安齋留美子	渡邊信弘
三枝和美	湯浅秀和	福島正	熊崎ルミ	金子憲史	関根憲夫	《125回生》 黒須玉衣	岡部将弘	長岐浩嗣	本城千晶	倉成恭代
我喜屋充代	中村久美子	三宅光子	熊崎ルミ	金子憲史	関根憲夫	《126回生》 黒須玉衣	岡部将弘	長岐浩嗣	本城千晶	倉成恭代
八木雅子	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《127回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
佐藤富江	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《128回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
隅田薫	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《129回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
落合章子	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《130回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
木村知代	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《131回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
梅沢茂幸	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《132回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
斉藤重雄	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《133回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
森山拓哉	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《134回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
鎌田時江	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《135回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
川島由宜代	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《136回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
金子幸江	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《137回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
菊地敦子	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《138回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
伊佐雅裕	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《139回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
岡田史伸	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《140回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
金井和美	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《141回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
斉藤敏雄	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《142回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
三枝誠	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《143回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
竹田秀行	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《144回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
夢川順子	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《145回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代
佐藤厚子	飯塚一也	江田善光	諏訪丈晴	箕輪誠	折原秀典	《146回生》 黒須玉衣	本城千晶	倉成恭代	倉成恭代	倉成恭代

「明治11年（1878）、小学校教員養成を目的とする「不動岡講習学校」が県の指示により開校されたが、翌年の郡制施行に伴い廃校となった。地元有力者らは教育制度の改正を見込み、更に公立中学校への転換を目指して「私立会川中学校」を開設した。「改正教育令」により明治14年4月「公立不動岡中学校」が開設された。明治18年には、羽生や行田地区の学

「私立埼玉英和学校」
開校まで

不動岡高校
140年
-前編-

校も併合し「北埼玉郡立中学校」となり、県北の俊秀育成の唯一の場となった。
明治19年（1886）「中学校令」の公布により、郡立中学校は廃校になったが、教育を継続しようとする学校関係者や地元有志の熱意により広く寄付金を募金し3000円を得て、明治19年11月「私立埼玉英和学校」と称し、設置伺書を提出し、ここに「私立埼玉英和学校」が11月11日開校した。さらに、明治26年（1893）知事から文部大臣へ認定を具申し、「文部省認定私立埼玉英和学校」が誕生した。これに際しても、この地にも中学教育が必要」とのも

「質実剛健」の誕生と
洪沢栄一の来校
第4代の肥留川鷲雄校長（大正5〜昭和5在職）は、初の卒業生の校長であった。30代後半での就任であったが、既に従七位に叙位

とに郡長、知事、郡会議員、地域の方が動き補助金増額運動が起き、郡や県からも多額の補助金得たという記録も残っている。目まぐるしく変わる国や県の学校令に対応し、資金難を克服した当時の地域の方々の学校存続への思いと行動力が本校創立に大いに貢献したことを、改めてお伝えしたい。

されているなど、当時の校長の権威と権限がいかに大きいものかが窺い知れる。肥留川校長は着任してすぐに今でいう学校経営方針の第一に「質実剛健は本校創立以来の校風なる事」とあげている。肥留川校長は、県立移管を実現するなど大きな功績を残しているが、もう一つ本校の歴史を語る上では欠かすことのできない洪沢栄一男爵（のちに子爵）の来校を実現させたことである。昭和11年（1936）の本校50周年記念誌に肥留川校長の回顧の第一として、次の記述が見られる。
一、男爵洪沢閣下の来校。大正7年（1918）11月2日かねて

待望の男爵は梅澤慎六君（注、本校卒業生で当時、洪沢が監査役を務める日本興業銀行社員であった）の案内にて来校。「活学問と協同一致」と題して生徒に。「富と道徳」と題して地方有志に講演。校内に於いて二百余名閣下の歓迎会を催せり。
とある。洪沢栄一の来校講演は、肥留川校長の強い願望によって実施に至ったことが読み取れる。この50周年記念誌に当時の職員足立武樹教諭の寄稿に大変興味深い記述がされていたので、一部を紹介する。
肥留川校長が洪沢男爵に揮毫を頼まれた。国家的な仕事に多忙で

祝 不動岡高校 創立 140 周年
令和 8 年（2026）11 月 11 日
140 回目のお誕生日!!



我が不動岡高校は、埼玉県で最も古い高校です。来年、令和 8 年（2026）11 月に、創立 140 周年を迎えます。明治・大正・昭和・平成・令和という長い期間、日本を支える多くの人材を、世に送る学び舎として、その名を轟かせてきました。
学友会としての、140 周年記念事業についてお知らせいたします。

①「名簿作成」

令和 5 年（2023）の学友会総会での決定に基づき、個人情報適正管理はもちろん、名簿にシリアルナンバーを付け、頒布は会員本人のみに限定する等を留意し、委託業者㈱サラトにより進んでおります。

名簿購入希望者は、8 月 5 日現在、2,101 名。この事業への協賛者は、1,239 名です。

お申し込み及び協賛ありがとうございます。

名簿は、令和 7 年（2025）10 月中旬以降随時発送される予定です。

②「記念品製作（寄付金とセット）」について

母校、不動岡高校の更なる発展を支援するための、寄付を募ります。（募金趣意書をご覧ください）

一口 5,000 円。できましたら、複数口のご寄付をお願いします。この学友会だよりに同封されている振込用紙をお使いください。

一口用 5,000 円、二口用 10,000 円は、コンビニ払い可能です。無制限用は、金額を記入し郵便局のみ可能です。

一口以上ご寄付いただいた方に、不動岡高校の「f」をデザインしたタンブラーと記念誌を来年、令和 8 年（2026）10 月発送準備が整い次第発送させていただきます。



レーザー彫刻が表裏に入ります

おかげ様で不動岡高校は 令和 8 年（2026）創立 140 周年を迎えます



あった閣下を煩わすことはできない。ある日、東京から電話があった。「今日こそは例の揮毫をお願いする良い機会である。さて、その字面はなんとするか。」

生憎、その日は校長不在である。何とか答えねばと思い、一瞬に閃き「では、質実剛健とお願いしよう」。かくして出来たのが、講堂にある額である。電話先の交渉で思い浮かび確信をもって答えたのは、本校の歴史の力、伝統の精神で本校を知り、本校に生活する誰もが頭に浮かぶものである。

こうして、校訓「質実剛健」が誕生する。



県立不動岡中学校誕生

大正期になると、本校も社会と同様に経済的に安定期に入った。しかし、欧州戦争（第一次世界大

戦）による戦争景気で、教職員は俸給のよりよい他校や会社へ転出するという新たな危機が見られ始めている。それを打開するために「金のあるうちに県立にした方がいい」ということになり、県に敷地1万坪、現金3万円の寄付を条件に、近隣の町村長の了解のもと移転と県立に移管することが決定した。当時の地方自治体の仕事は、第一に教育、第二に勧業ということであった。それを実際に具現化したような形となった。大正10年（1921）4月1日「埼玉県立不動岡中学校」が誕生する。

それに合わせるように、母校出身の教職員も多く採用されている。県立移管への記念式典の様子の一部を掲載する。

大正10年11月12日

朝来天晴れて気清く、天空に轟く煙火は、先ず人々の心をそる。校門にしつらえるアーチ、朝日に映えてうるわしく、日章旗翻る。

朝野貴紳の来賓卒業生陸統として定刻前より、来り会し、場は溢れ、講堂は満たされ右往左往の人々の面上には喜びの色溢る。喇叭の響き渡りて来賓、生徒式場に向ふ。式場には校旗の勾玉の光まばゆく、人の目を射る。

不動岡中学校の命名についてであるが、当時の記録に、過去から現在にまで継承されるべき「質実剛健」の不動精神について次のような記述がされている。

不動岡という地名ではあるが、更に精神的な或るものがあつた様

に思われる。本校の過去の事実が雄弁に不動精神を物語る不中魂はこの質実剛健であり、この不動精神ある。これは、本校の過去と現在を結び、更に未来に発展すべき大精神である。時は移り、人は変わる。教育の時代相も又、変わるけれども、この本校独自の精神を鍛へ鍛へて継承し、この尊き学校精神をいよいよ發揮してゆくことが本校を未来に生かすべき道であり、過去に報いる所以であると信じるのである。

関東大震災による被害

大正12年（1923）9月1日関東地方を襲った未曾有の大地震は本校にも大きな被害をもたらせた。その時の記録である。

本館の瓦は落ち、教室は棟が曲がり、相当に危険な状態の校舎に応急手当をし、とにかく授業を続けられた。校友会報原稿は、印刷社が東京のため焼失し、休刊の止むなきに至る。東京で家を焼かれ、いわゆる避難生徒の転入収容があつた。

新校舎落成

大正13年3月15日不動岡村東端、今の地に新築校舎が落成し、同30日に移転した。そして、大正11年11月10日に新校舎落成祝賀会が校庭で、900名の来賓と700名

の生徒の傘下の元に実施された。当日は、加須駅から自動車2台と人力車が来賓を運び、道筋にある加須、礼羽、三保。不動岡の各町村で花火を上げ、山車を繰り出し、街路装飾も見られるなど文字通りの地域を挙げての祝賀ムードであつたという。地域の願いで作られ、幾多の困難を人々の尽力と支えて乗り越え、存続し、実を結んだ「おらが学校」であつたゆえの証であつた。新たな不動岡中学校の出発である。



配属将校の配置

大正14年全国一斉に中等学校以上の学校に軍事教官が置かれるようになる。本校にも、大正14年5月5日に近衛歩兵第一連隊歩兵大尉丸岡康平氏が着任した。配属将校というと戦時中を思わせるが、

既に時代を見据えたような大正期からあつたということに驚きを感じている。

校舎内外の掃除

（50年史から抜粋）

本校では校舎の清掃は、校務員が行い、生徒は、時々校庭の草をとる程度であつたが、昭和5年度（1930）から費用の関係から校務員が減員し、掃除は一切生徒が行うようになった。生徒が掃除をするようになってからはめっきり校舎内の清潔整頓が立派になった。また、校門外の道路も生徒が掃除をするようになった。真に、学校の訓練が徹底して勤労愛の精神が生徒に理解されていたかどうかは掃除を見れば分かる。

ポプラ並木の整植

（50年史から抜粋）

勤労愛が強調され、第一に実行されたのは、校内の樹木の植え替え作業であつた。昭和5年当時、まだ、作業という時間はなかった。ので、放課後3年生以上の生徒が順次労役に服し、職員も校長はじめ総動員でまず、校庭表庭の樹木の整植をやった。続いて運動場の西側へポプラ、プラタナスの並木をつくつたのであつた。樹木の生長は早いものであつた。樹木の生がそれである。教室の窓に青嵐を送り、運動するものに美しい緑陰を作ってくれている。

令和5年度学友会活動

会務・会計報告

(令和5年11月1日～令和6年10月31日)

計 報

令和5年
11月10日(金) 会計監査
11月13日(月) 総会準備役員会
11月23日(木) 学友会総会 懇親会
12月12日(火) 第1回役員会

令和6年
1月16日(火) 第2回役員会
2月6日(火) 第3回役員会
3月5日(火) 第4回役員会
3月13日(水) 第136回卒業生 学友会入会349名
(男150 女199)(普通科311・外国語科38)

卒業生3ヶ年皆勤者37名に記念品贈呈
3月14日(木) 第136回卒業証書授与式
3月14日(木) 第136回卒業生入会金受領 (349名)
4月5日(金) 第137回入学式

358名(男182 女176)(普通科)

4月9日(火) 第5回役員会
5月7日(火) 第6回役員会

6月1日(土)・2日(日) 学校祭 資料室開放

6月11日(火) 第7回役員会

7月9日(火) 第8回役員会

8月6日(火) 第9回役員会

9月3日(火) 第10回役員会

10月1日(火) 「不高学友会だより」第67号発行

【発送対象者…4816名】

10月8日(火) 第11回役員会
10月29日(火) 第12回役員会

※年度を通して不動岡高等学校の国際交流事業等を支援しております。

令和5年度 学友会環境整備会計決算報告書

(令和5年11月1日～令和6年10月31日まで)

収入総額 9,991,458 円

支出総額 7,462,963 円

残 額 2,528,475 円 (次年度へ繰り越し)

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差引増減額	備 考
繰入金	6,282,000	6,282,000	0	学友会会計から繰り入れ
雑収入	951	409	△ 542	現金利子
繰越金	3,709,049	3,709,049	0	前年度からの繰越金
合計	9,992,000	9,991,458	△ 542	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差引残額	備 考
校内環境整備費	5,000,000	4,411,315	588,685	校内環境整備
情報教育助成費	4,000,000	2,898,586	1,101,414	コンピュータリース代等
設備保守費	400,000	153,082	246,918	コピー使用料、軽トラック維持等
予備費	592,000	0	592,000	
合計	9,992,000	7,462,963	2,529,037	

上記のとおり、ご報告いたします。

令和6年11月17日

学友会会長 角田 守良

監査の結果、上記の会計報告が適正であることを認めます。

令和6年11月8日

監 事 鈴木 秀次

木村 弘

学友会周年事業基金報告

(単位:円)

区 分	金 額	備 考
令和4年度までの積立金額	6,899,345	積み立て開始429.5.1
令和5年度の収入	450	現金利子
令和5年度の支出	3,000,000	学友会会計に繰り出し
年度末繰越額	3,899,795	

令和5年度 学友会会計決算報告書

(令和5年11月1日～令和6年10月31日まで)

収入総額 15,470,497 円

支出総額 10,530,607 円

残 額 4,939,890 円 (次年度へ繰り越し)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備 考
入会金	1,745,000	1,745,000	0	卒業生349名×5,000円
会費	1,490,000	1,659,000	209,000	
学校支援金	6,282,000	6,282,000	0	卒業生349名×18,000円
寄付金	10,000	506,267	496,267	
懸賞金	150,000	150,000	0	
雑収入	290,000	187,721	△ 42,279	現金利子、学友会グッズ売上金等
繰入金	3,000,000	3,000,000	0	学友会周年事業基金からの繰入金
繰越金	1,838,509	1,838,509	0	前年度からの繰越金
合計	14,825,509	15,470,497	644,988	

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	実行増減額	実行後予算額	決算額	差引残額	備 考
総会懇親会費	300,000		300,000	267,028	32,972	
記念品・表彰費	1,000,000	△ 38,108	961,892	649,507	312,385	卒業生349名、事務費 費負担品、学友会グッズ
広報費	1,100,000	97,452	1,197,452	1,197,452	0	学友会日より発行等
通信費	600,000	△ 97,452	502,548	383,781	118,767	学友会日より、総会案内送付等
振込手数料	250,000		250,000	247,397	2,613	年会費等振込手数料
活動助成費	100,000		100,000	0	100,000	
備品費	20,000	5,090	25,090	25,090	0	卒業アルバム代
購読料	20,000		20,000	20,000	0	不働岡高校新聞購読料
消耗品費	30,000	33,058	63,058	63,058	0	封筒、プリンターインク等
繰入金	1,000,000		1,000,000	1,000,000	0	不働岡高校国際交流奨励金
繰越金	6,282,000		6,282,000	6,282,000	0	学友会連帯賛助会へ繰り出し
周年事業基金積立	0		0	0	0	
慶弔見舞金	30,000	8,660	38,660	38,660	0	
会員情報管理費	50,000	△ 8,660	41,340	5,500	35,840	管理報告料
資料管理費	250,000		250,000	50,000	200,000	資料管理謝金
事務局等活動費	350,000		350,000	301,204	48,796	謝金等
140周年事業費	3,000,000		3,000,000	0	3,000,000	
予備費	443,509		443,509	0	443,509	
合計	14,825,509	0	14,825,509	10,530,607	4,294,902	

上記のとおり、ご報告いたします。

令和6年11月17日

学友会会長 角田 守良

監査の結果、上記の会計報告が適正であることを認めます。

令和6年11月8日

監 事 鈴木 秀次

木村 弘

学友会役員

会 長…角田守良(87回生)
副会長…駒井信亮(86回生)・船川喜正(86回生)
松永知子(88回生)・木村 純(90回生)
赤坂由美(92回生)・酒巻浩一(92回生)
羽鳥正行(94回生)・梅澤義一(96回生)
松本幸枝(98回生)
監 事…木村 弘(87回生)・鈴木秀次(96回生)
事務局長…小野田幸夫(85回生)

令和7年度 学友会学校幹事紹介

◎細村 拓也(95回生) 柿沼 孝司(111回生)
新井 学(118回生) 石田 美佳(119回生)
矢嶋 正悟(123回生)
任期…令和7年4月～令和8年3月

◎は代表幹事

(63回生) 井ノ山恒雄、(67回生) 森田弘道、(68回生) 遠藤俊作、
小池康夫、関根壽一、富田不二雄、(70回生) 青木孝司、(71回生)
内田好子、常住悦子、大橋悦子、天沼志津子、石塚久雄、小川
博通、小野田清、折原啓三、斉藤誠一、杉下繁夫、鈴木康司、
鈴木敏夫、高木好夫、高橋盛久、中島昇吾、伴光治、平渡大樹、
森清治、(75回生) 池田千代子、森元秀男、(77回生) 西村良子、
(80回生) 石井洋子、荒木好子、岩佐正美、石田雄作、小堀一夫、
瀧田武司、(81回生) 町田修、新井敬治、(82回生) 青木久義、
高田遊、内田靖雄、(83回生) 柘植正弘、新井清次、岸清史、
(84回生) 梅沢勝英、関口努、(85回生) 新井春彦、野本浩、
(86回生) 福沢俊一、高橋守、田中章三、友田賢治、新井克夫、
小林紀之、渡辺仁、川島 省、(88回生) 藤間昭三、山口真司、
(90回生) 小澤和恵、(91回生) 大熊英二、(93回生) 石川互、
(96回生) 長島陽一、野村寧、(5回生) 田辺喜久弥、(12回生)
原口靖江、田辺三佐子 (敬称略)

令和6年8月から令和7年1月までの間に学友会事務局にお知
らせを頂いた皆さまです。
ご冥福をお祈り申し上げます。



頑張る不高生！

運動部

●陸上部

高校総大県予選会
女子走高跳 優勝 3年 山口 歩華
男子八種競技 6位 2年 鈴木 匡紀
関東高等学校陸上競技大会
女子走高跳 5位
インターハイ出場決定 3年 山口 歩華

●サッカー部

令和6年度 U-18 東部2部昇格
令和6年度 U-16 県リーグ参入戦出場
令和6年度東部支部新人大会 ベスト8

●ラグビー部

令和6年度関東高学合同チーム
ラグビーフットボール大会
埼玉県代表選手選出 青木・滝本・中原
令和6年度埼玉県高校ラグビー
四地区対抗戦
東部地区代表選手選出

国民スポーツ大会埼玉県予選
東部地区大会 3位
(現2年) 小林・福田

●剣道部

関東高等学校剣道大会 東部地区予選会
女子団体 3位
女子個人 優勝 3年 岩下 奈央
男子個人 優勝 3年 種村 比呂
男子個人 3位 3年 細川 幸哲
関東高等学校剣道大会 県予選会
女子個人 準優勝 3年 岩下 奈央

●男子バスケットボール部

高校総大 県東部支部予選会 ベスト16

●女子バスケットボール部

新人大会県東部支部予選会

代表決定戦進出

春季高校県東部支部大会 2回戦進出
高校総大県東部支部予選会 2回戦進出

●男子バレーボール部

県高等学校東部支部春季大会
2回戦進出

●女子バレーボール部

高校総大県予選会 出場

●卓球部

関東及び高校総大予選東部予選会
団体戦 男子5位
女子6位

●女子テニス部

高校総大東部地区予選大会
シングルス 31位 2年 四ツ柳 美伽
ダブルス 16位 2年 四ツ柳・金子
団体戦男子 ベスト32
団体戦女子 ベスト16

●山岳部

関東高等学校体育大会
登山競技県予選会 出場
今村・堀江・矢島・三須

●応援部

六校応援団連盟演技発表会 「日輪の下に」
本校文化祭 「不動の集い」

●男子バドミントン部

高校総大会東部支部予選会
男子ダブルス ベスト32
2年 都丸・1年 山下

●女子バドミントン部

関東高校体育大会東部支部予選会
学校対抗 2位

増川・高橋・片元・鮫島
角谷・矢島・高瀬・森田

関東高校体育大会県予選会
学校対抗 出場

増川・高橋・片元・鮫島
角谷・矢島・高瀬・森田

高校総大会県予選会
女子ダブルス 3年 増川・鮫島
3年 高橋・片元

文化部

●吹奏楽部

第11回ファミリーコンサート
&第55回定期演奏会 開催
第75回全国植樹祭 出演
東部支部吹奏楽研究発表会 出演

●茶道部

加須市騎西藤まつり 参加

●華道部

全国高校生花いけバトル 関東大会
5位 3年 遠藤・門脇
10位 2年 大隅・3年 渡部

●競技かるた部

第6回埼玉ぼるこ
彩雲かるた会大会D級 3位
2年 諸田 大翔

●軽音楽部

MUSIC DAYS 2025
北埼玉大会 最優秀賞
“LIT” 澤矢・寺山・土屋・菅・林

新教職員

校内人事

氏名	職名・教科	前任校（前勤務先）	回生
菅野 祥憲	教頭・公民	大宮中央高校	
柿沼 孝司	教諭・理科	熊谷西高校	111
安井 修	教諭・数学	上尾高校	115
小田 章裕	教諭・情報	妻沼高校	
白石 将也	教諭・国語	岩槻北陵高校	
鎌田 脩平	教諭・英語	新採用	
武井明日香	教諭・理科	新採用	
齋藤 未緒	教諭・地歴	熊谷西高校	
大木 道雄	講師・美術	松山高校	
金木 謙一	講師・国語	伊奈学園総合高校	
高笠 令子	教諭・英語	春日部高校	
北村 輝	教諭・保健	久喜市立太田小学校	
三浦 大亮	教諭・保健	新卒	
薩田知菜津	養護教諭	川口青陵高校	
斎藤真由美	主任実習助手	誠和福祉高校	
柴山 珠枝	主任	久喜特別支援学校白岡分校	

転出・退職者

氏名	職名・教科	転出先	回生
岡田 直人	教頭・英語	熊谷高校	
松村 友	教諭・英語	羽生高校	
杉山 武士	教諭・情報	県教育局ICT教育推進課	
荒川 翔	教諭・数学	栗橋北彩高校	
神川 達彦	教諭・国語	三郷高校	
澤田 将智	教諭・地理歴史	大宮東高校	
鈴木 明	教諭・美術		90
大塚 優	教諭・保健		
酒巻 久夫	教諭・国語	熊谷西高校	
長澤 匠実	教諭・理科	羽生高校	
宇賀 正子	養護助教諭		
久保田幸子	主任実習助手		
荒川 幸恵	主任	羽生第一高校	

令和7年

進路
実績

国公立大学108名合格（現役102名）

難関私立大学

早稲田大学20名、慶應義塾大学6名、上智大学21名、東京理科大学27名
明治大学・青山学院大学・立教大学・中央大学・法政大学・学習院大学 291名

過去3年間の合格者数（のべ人数）

国公立大学

大学名（国立）	2023		2024		2025	
	計	現	計	現	計	現
北見工大	0	0	1	1	0	0
北海道大	2	1	4	4	1	1
弘前大	1	1	1	0	1	0
東北大	3	2	4	4	1	0
秋田大	1	1	0	0	0	0
山形大	2	2	0	0	1	1
福島大	1	1	0	0	0	0
茨城大	2	2	4	4	1	1
筑波大	8	8	8	8	10	8
宇都宮大	4	4	6	6	6	6
群馬大	3	3	6	6	3	3
埼玉大	21	21	28	28	17	17
千葉大	8	6	8	5	5	5
東京海洋大	0	0	2	2	1	1
お茶の水女子大	2	2	1	1	1	1
電気通信大	1	1	2	1	1	1
東京外大	1	1	2	2	1	1
東京学芸大	8	8	6	6	4	4
東京芸大	1	0	0	0	0	0
東京科学大	1	1	2	2	1	1
東京農工大	2	2	0	0	1	1
一橋大	0	0	1	1	1	1
横浜国立大	1	1	0	0	1	1
新潟大	2	0	2	2	5	5
富山大	2	2	1	1	1	1
金沢大	1	1	1	1	5	5
福井大	0	0	0	0	1	1
山梨大	1	1	1	1	0	0
信州大	3	3	4	3	2	2
岐阜大	0	0	1	0	1	1
静岡大	0	0	0	0	1	1
愛知教育大	0	0	1	1	0	0
名古屋大	0	0	0	0	1	1
京都大	1	1	0	0	1	1
京都工芸繊維大	0	0	0	0	1	1
大阪大	1	1	0	0	0	0
大阪教育大	0	0	0	0	1	1
神戸大	0	0	0	0	1	1
和歌山大	0	0	1	1	0	0
鳥取大	0	0	1	1	0	0
島根大	0	0	1	1	0	0
広島大	0	0	1	1	0	0
山口大	0	0	1	0	0	0
愛媛大	1	1	0	0	1	0
高知大	0	0	1	1	0	0
九州大	0	0	1	1	0	0
鹿児島大	1	1	0	0	0	0
合計	86	79	104	96	80	75

大学名（公立）	2023		2024		2025	
	計	現	計	現	計	現
はこだて未来大	0	0	0	0	1	1
秋田県立大	1	1	0	0	1	1
国際教養大	1	1	0	0	0	0
会津大	1	1	0	0	0	0
福島県立医大	1	1	1	1	0	0
茨城県立医療大	1	1	0	0	0	0
前橋工科大	0	0	0	0	1	1
群馬健康科学大	0	0	1	1	0	0
群馬県立女子大	0	0	2	2	2	2
高崎経大	3	3	2	2	3	3
埼玉県立大	3	3	2	2	8	8
東京都立大	5	4	2	1	3	3
川崎市立看護大	0	0	0	0	2	2
横浜国立大	0	0	3	3	2	2
長岡造形大	0	0	0	0	1	1
石川県立大	1	1	0	0	0	0
金沢美術工芸大	0	0	0	0	1	0
都留文科大	1	1	1	1	1	1
静岡県立大	1	1	0	0	1	1
名古屋国立大	0	0	0	0	1	1
大阪公立大	0	0	1	1	0	0
岡山県立大	1	1	0	0	0	0
北九州市立大	1	1	0	0	0	0
長崎県立大	0	0	1	1	0	0
合計	21	20	16	15	28	27

私立大学

大学名（私立）	2023		2024		2025	
	計	現	計	現	計	現
天使大	0	0	0	0	2	2
東北医薬大	0	0	0	0	1	1
医療創生大	0	0	1	0	2	2
足利大	2	2	0	0	1	1
国際医療福祉大	1	1	2	2	0	0
自治医大	1	1	4	4	2	2
獨協医大	1	1	2	2	2	2
白鷗大	0	0	1	0	2	2
東京福祉大	1	1	0	0	0	0
高崎健康福祉大	1	1	2	2	3	3
群馬医療福祉大	0	0	0	0	1	1
群馬バース大	0	0	1	1	2	2
跡見学園女子大	2	2	2	2	1	1
埼玉医大	0	0	1	0	1	0
埼玉工大	6	6	0	0	2	2
城西大	8	8	5	5	3	3
聖学院大	2	2	0	0	1	1
東京国際大	6	6	1	1	0	0
獨協大	44	44	47	45	78	76
日本工大	14	13	1	1	7	6
文教大	51	50	45	40	53	52
文京学院大	6	6	0	0	0	0
明海大	1	1	0	0	2	2
目白大	6	6	2	2	5	5
十文字学園女子大	5	5	0	0	2	2
西武文理大	1	1	0	0	0	0
共栄大	1	1	1	1	1	1
ものづくり大	2	2	0	0	0	0
日本薬大	2	2	1	1	3	2
人間総合科学大	0	0	0	0	1	1
日本医療科学大	1	1	0	0	3	2
神田外語大	3	3	9	9	0	0
淑徳大	1	1	0	0	2	2
城西国際大	0	0	2	2	0	0
聖徳大	0	0	0	0	1	1
千葉工大	11	10	7	7	16	16
帝京平成大	7	7	3	3	0	0
秀明大	0	0	0	0	1	1
麗澤大	1	1	1	1	4	4
和洋女子大	3	3	1	1	0	0
青山学院大	27	26	28	26	23	20
亜細亜大	4	4	4	4	3	3
桜美林大	8	8	7	7	1	1
大妻女子大	10	10	4	4	6	6
学習院大	34	32	44	42	41	35
北里大	4	4	8	8	9	8
共立女子大	14	14	8	8	7	7
杏林大	7	7	5	5	7	7
慶応大	7	5	8	6	6	5
工学院大	8	8	12	8	11	10
国学院大	21	17	26	23	25	22
国際基督教大	0	0	1	0	0	0
国士館大	2	2	2	2	6	6
駒澤大	28	26	33	30	27	25
駒沢女子大	3	3	1	1	0	0
実践女子大	9	9	6	6	1	1
芝浦工大	28	23	30	27	69	68
順天堂大	9	9	6	6	16	16
上智大	8	7	9	8	21	17
昭和大	3	3	0	0	0	0
昭和女子大	28	28	20	20	17	17
昭和薬大	5	5	3	3	0	0
女子栄養大	2	2	9	9	1	1
女子美大	0	0	0	0	1	1
白百合女子大	2	2	1	1	1	1
成蹊大	23	21	28	27	27	26
成城大	16	15	16	15	19	19
聖心女子大	1	1	0	0	2	2
清泉女子大	0	0	0	0	1	1
聖路加国際大	0	0	1	1	1	1
専修大	20	17	21	20	13	13
創価大	1	1	2	2	1	1
大正大	7	7	3	3	0	0
大東文化大	25	23	34	29	30	28

大学名（私立）	2023		2024		2025	
	計	現	計	現	計	現
高千穂大	0	0	0	0	1	1
拓殖大	1	1	2	2	5	5
玉川大	5	5	5	5	4	4
多摩美大	1	1	1	1	2	2
中央大	27	20	40	35	20	19
津田塾大	8	8	19	18	8	7
帝京大	6	6	24	24	7	7
東海大	15	14	4	4	5	5
東京医大	1	1	3	3	2	2
東京音大	0	0	0	0	2	2
東京家政大	19	19	15	15	11	11
東京家政学院大	1	1	0	0	0	0
東京経大	1	1	7	7	1	1
東京工科大	7	6	5	5	7	7
東京女子大	12	12	19	19	11	11
東京女子医大	2	2	0	0	1	1
東京造形大	0	0	0	0	1	1
東京電機大	21	21	36	33	32	31
東京農大	19	17	17	17	10	10
東京薬大	4	4	3	2	4	4
東京理大	25	20	19	13	27	22
東邦大	5	4	11	10	2	2
東洋大	172	162	209	194	175	166
二松学舎大	1	1	0	0	0	0
日本大	50	49	45	39	39	34
日本歯大	0	0	1	0	0	0
日本社会事業大	0	0	0	0	1	1
日本獣生命大	3	3	0	0	1	1
日本女子大	9	9	18	18	21	20
日赤看護大	2	2	3	3	10	10
文化学園大	3	3	0	0	0	0
法政大	58	52	63	57	61	58
星薬大	2	2	8	5	7	5
武蔵大	22	21	21	21	21	20
東京都市大	6	6	4	3	8	8
武蔵野音大	0	0	0	0	1	1
武蔵野大	15	15	33	32	25	24
武蔵野美大	3	3	1	0	2	1
明治大	47	40	51	47	65	64
明治学院大	19	19	14	14	17	17
明治薬大	10	10	15	12	13	12
明星大	8	8	11	9	9	9
立教大	65	62	79	67	81	77
立正大	12	10	8	8	14	14
早稲田大	15	13	21	19	20	17
学習院女子大	3	3	1	1	1	1
東京医療保健大	0	0	3	3	2	2
麻布大	0	0	1	1	2	2
神奈川大	5	5	0	0	0	0
神奈川工科大	0	0	0	0	1	1
関東学院大	0	0	3	3	0	0
産業能率大	1	1	1	1	2	2
洗足学園音大	0	0	1	1	1	1
東京工芸大	1	1	2	2	0	0
金沢工大	0	0	0	0	1	1
金沢学院大	1	1	0	0	0	0
帝京科学大	2	2	1	1	0	0
常葉大	0	0	2	2	0	0
中京大	1	1	0	0	0	0
中部大	0	0	0	0	1	1
名古屋音大	0	0	1	1	0	0
愛知工科大	1	1	0	0	0	0
京都女子大	0	0	0	0	1	1
同志社大	1	0	7	7	0	0
同志社女子大	3	3	0	0	0	0
立命館大	0	0	1	0	2	2
大阪芸大	1	1	0	0	0	0
関西外大	0	0	3	3	0	0
近畿大	0	0	2	0	3	1
関西学院大	1	1	2	2	5	5
合計	1278	1200	1388	1272	1374	1300

今春の入試状況について